

2025「いきいき音楽体験事業」学校巡回公演

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」

稽古日記 Vol.2 「演出家の仕事」



ヘングレ兄妹と魔女との攻防



演出の塙 翔平氏



眠りの精の魔法で眠りに落ちる兄妹

今年度の学校巡回ツアーの初日がいよいよ2週間後に迫り、稽古にも一段と熱が入ってきました。

この日は、ヘングレ兄妹と魔女の攻防の場面を中心に稽古が行われました。二人をだまして食べてしまおうとする魔女と、知恵を使って何とか魔女をやっつけようとする兄妹。音楽的にも緊張感が高まる場面で、ここがこのオペラの最大の見せ場です。それだけに、歌い手にとっては歌や芝居の高度な技術が要求される大変難しい場面でもあります。

オペラの音楽面の責任を負うのが指揮者ならば、芝居の演出の責任を担うのが演出家です。オペラの演出は普通の演劇とは違い、音楽や歌の豊富な知識が必要であり、何よりそのオペラを隅々まで熟知している必要があります。また、ある意味教師のように歌い手の力を引き出し、最高のパフォーマンスを発揮できるようにさせるための、教える技術も必要になります。

我々がご指導いただいている新進気鋭の演出家、塙 翔平氏は、ご自身がバリトン歌手で数々のオペラの舞台に立ち、演出も手掛けておられる逸材です。

塙先生の稽古は、歌い手の問題点を独特の比喻を用いて指摘し、(これが的確で分かり易く、誰しものが納得！)歌い手をリラックスさせながらさらに高みに導いてくださいます。そのため、稽古場にはいつも明るい笑いが絶えません。また、こうしろと一方的に押し付けるのではなく、どうしたらよいか常にディスカッションしながら進めてくださるので、歌い手が委縮せず、自分で考え、自信をもって歌い演じることができます。素晴らしい先生です。

この事業では、「ヘンゼルとグレーテル」の公演を始めて今年で5年目(途中、コロナによる2年間の休止期間有り)になりますが、先生の我々歌い手に対する要求が年々高く深くなっているのを感じます。それは、オペラという芸術に携わる者がマンネリに陥らず、常に観客を感動させる舞台を創り続けるための大切な姿勢を我々に示してくださっています。今日も、歌い手の一つ一つの動きにどんな意味があるのか、そしてそれが本当に観客にきちんと伝わる表現になっているかを我々に問いかけ、共に突き詰めていく有意義な稽古でした。